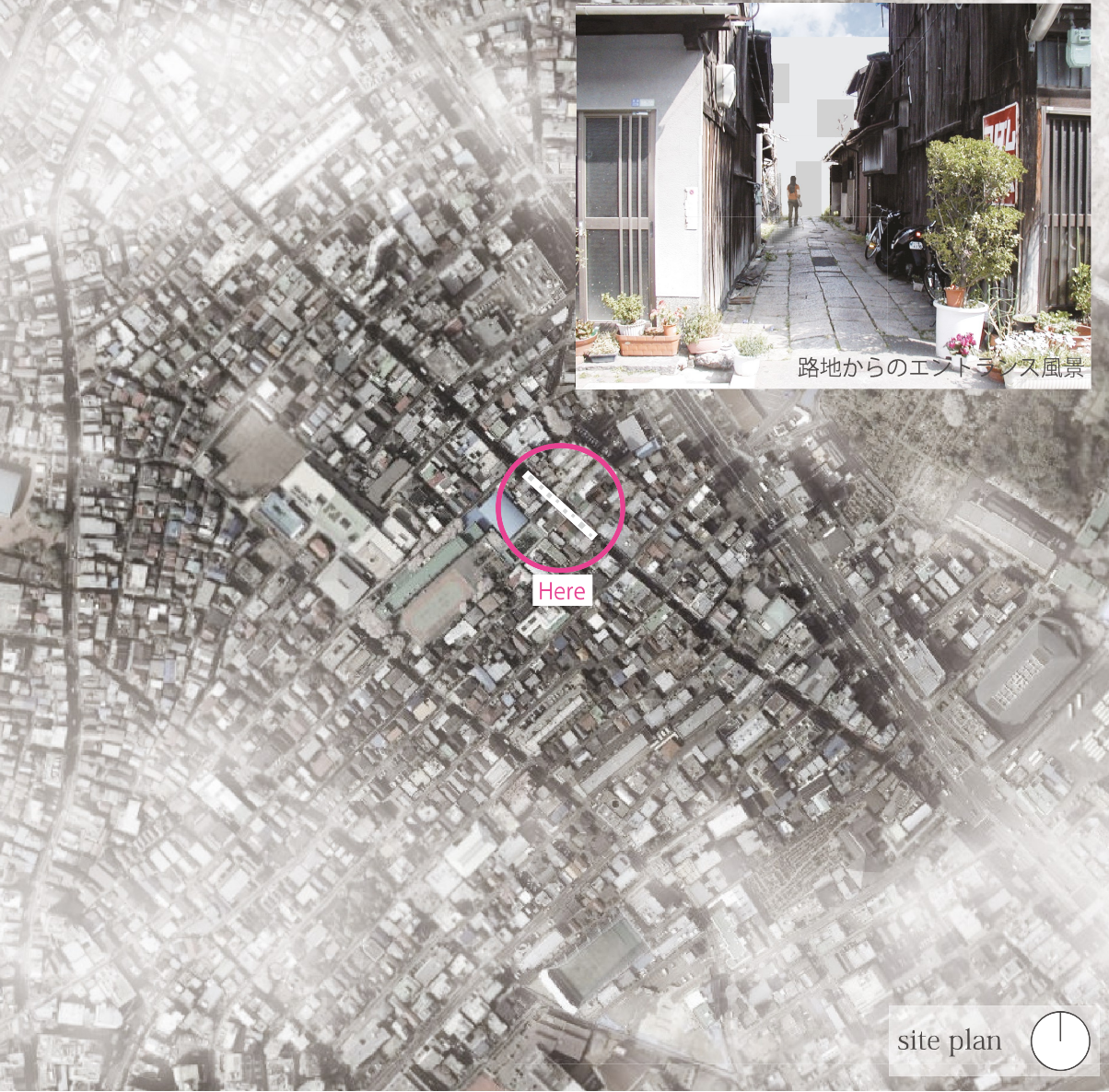
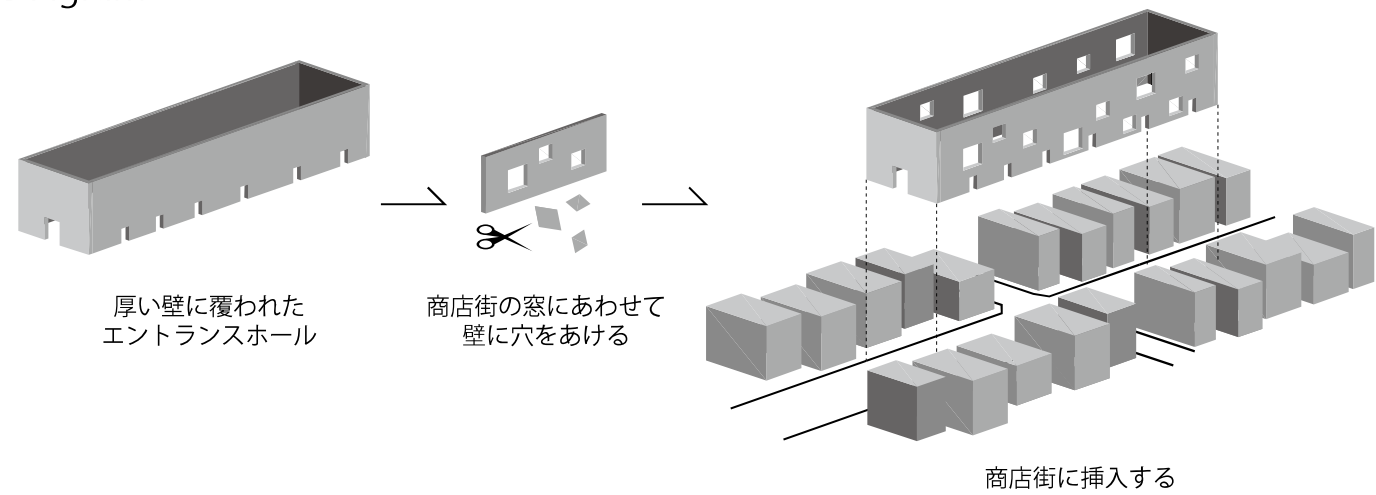


寄生する美術館 The museum parasitic on a deserted shopping street

ここは、東京のとある商店街である。
この商店街は、高度経済成長期はにぎわっていたものの、
現在では空きビル、空きテナントが目立つ通称「シャッター街」
となってしまった。
このような商店街は全国どこにでもあるのではないだろうか。
そんな商店街という枠を超えて何か新しい次世代型の商店街
となる「アプリ」ができないだろうか。
商店街の本来持っている潜在力を生かしたアプリが。
そこで、相反する潜在力を持つもの同士を組み合わせると
どうなるだろうか。つまり、みんなにとって身近な存在の
「商店街」と敷居の高そうなイメージの「美術館」を
組み合わせると、人々の行動はどのように変化するだろうか。
この新しい美術館は、既成の美術館ではない。
都市のなかの身近な機能（ここでいう商店街の様々な機能）
をミュージアムの「サブ機能」（美術館の中にあるカフェ
やショップ等）に読み替える美術館のことである。
すなわち、都市の中に寄生していく美術館である。
人々にとって身近な存在の「商店街」を利用し、
商店街の空きテナントを展示空間とする。
すると、商店街の機能が美術館の「サブ機能」として位置
づけることができるようになり、美術館自体がまちに対して
寄生していくことで、真にまちに開かれた敷居の低い美術館となる。
商店街という街の中にあり、日常的なものをサブ機能として
読み替えることで、既成の美術館のもつ敷居の高さを克服
する建築となる。また、これからのまちづくりは、
スクラップアンドビルドで新たに単体の建物を建設するの
ではなくその地域のストックを最大限に活用し、利用する
ことが求められる。そのストックを最大限に活用する「アプリ」
となり、新たな建築の第一歩が始まる。



Diagram



寄生する美術館 The museum parasitic on a deserted shopping street

